

与論島の活性化のために

工学部電気電子工学科

山下善史

学籍番号 2515220779

今回集中講義「島のしくみ」を通して島の行政や産業に携わる方々のお話を聞き、また今までに見たことのないような自然に触れるという貴重な経験をした。その体験を通して与論島をどうすれば活性化できるかということを考えてみた。

私が考えたのはこの島の主要な産業の一つである観光業をもっと発展させてゆくためにはどうしたらよいかということだ。そのためには、より多くの人に与論島という選択肢があることを知ってもらい、実際に来て楽しんでもらい、そしてまた来たいと思ってもらうことが大事だ。まず与論島のことを知ってもらうことについてだが現状与論島の知名度は高くはない。そのためにはもちろんパンフレットやプロモーションビデオなどで広告、宣伝をおこなっていくことになるだろうがここで大事だと思うのが与論島の特色や与論島にしかないものをもっと前面に押し出してゆくことだ。せっかく与論のことを知ってもらっても絶対にここではないとダメというものがないと、フェリーでは 20 時間かかり飛行機では沖縄に行くよりも旅費がかさむという短所を持つ与論へはわざわざ行かなくてもよいかと思われかねない。百合ヶ浜をはじめとした景勝地もそうだが個人的には与論島が小さな島であることをもっと生かしたらどうかと思う。サザンクロスセンターの最上階から 360°が海という光景を見た時が自分は今、島にいるのだということを最も強く実感した時だった。

次に与論島を楽しんでもらうことについて。与論島を楽しめるポイントは数々のビーチやダイビングスポット、満点の星空等々いまさら上げるまでもないと思うのでここではいくつか気になったことを上げたいと思う。まず私が気になったのは島内の移動手段があまりないことだった。一応バスはあるが数時間に一本であるしレンタカーもあったが値段的にも、そもそも島の広さ的に車をわざわざ借りるほどでもない感じがした。しかし歩くとなると少し広い。そこで私はロードバイクや電気アシスト付き自転車を観光客向けに導入すると

よいのではと思った。実際自転車であれば茶花から大金久海岸まで一時間ほどで行くことができる。またガソリン代もかからず、環境にもやさしい。それほどお金をかけずにより与論島を満喫できるようになるのは旅行者にとってうれしいことだともう。次に私が気になったのはお土産を買う際に「与論島といったらこれ！」というものがほとんどなかったことだ。「与論島」に行ったことが印象的になればまた島にやって来ようと思う人もふえるともう。その点で焼酎は与論の特産といってよいが万人受けするかといわれると厳しいものがある。個人的には与論十五夜踊りで使われる小道具をグッズ化してはどうかとかがえている。最後に、私はミコノス通りの建物の窓が割れたままになっていること、道端の雑草が伸びきってしまっていること、ビーチのトイレやシャワールームが汚れたままになっていることなどが気になった。島全体が見て回れるほど綺麗なだけにこのような場所がどうしても目立ってしまう。観光客が良く行くであろう場所はもちろんそうでない場所も島全体が観光地であるという意識をもちつつ景観や衛生面を整備してゆけば観光客にもっと満足してもらえる島になっていくだろうと思う。